

【書記長談話】兵庫県知事選後も労働条件向上と教育条件整備に関わる要求実現運動を続けていきます

2024年11月29日

兵庫県高等学校教職員組合

書記長 谷充弘

2024年11月17日投開票の兵庫県知事選挙で、兵庫高教組が加盟団体でもある憲法県政の会が推薦した おおさわ芳清 候補 と政策協定を結び選挙に臨みましたが、当選には至りませんでした。ご支援をいただいた全国の組合の皆さんに心からの感謝を申し上げます。

おおさわ芳清 候補が掲げた教育分野の政策は、①「小中高の30人学級(高校職業科25人、定時制20人)を県独自で早期に実現します。」②「現在進められている高校の統廃合は撤回します。」③「高校の無償化と大学・専門学校の授業料軽減・無償化を進めます。県独自の給付制奨学制度を創設します。」④「学校給食を無償化します。」です。私たち高教組が目指している要求と一致していたので、10月12日、政策協定を結びました。

今回の知事選挙は、齋藤元彦氏が、知事を告発した文章を作成した職員の人権と公益通報制度の主旨を無視した、県職員に対するハラスメントが常態化していた等、氏の県知事としての資質が問われた選挙となりました。そして、特筆すべきは、県議会第一党である自民党が独自候補者を擁立できず、齋藤氏、稲村氏、清水氏、と自民党が三氏に分かれて支援を続けたことです。そこから見える本来の対立構造は、従来からの自民党主導の大企業優遇、大型プロジェクト推進を中心とする県政推進を選択するのか、一方、県民の声に耳を傾け、地域の願いつなぎ、県民が安心して暮らすことのできる県政をつくろうとした おおさわ芳清 候補なのかを選択するのかにありました。

序盤 おおさわ芳清 候補の公約を知った人々は期待を寄せ、支持は確実に広まりつつありました。ところが、選挙は日を追うごとに、SNS を活用し齋藤氏を支援する方々や真実を歪めた配信や時には脅迫ともとれる行動を取った立花氏などによって、齋藤氏への関心へと広がりを見せました。決して齋藤氏の公約に共感したのではなかったと、また齋藤氏を当選させてはならないと戦略的投票行動を取られた方もいたと推察されますが、結果は、おおさわ氏が73,862票に対し、齋藤氏1,113,911票、稲村氏976,637票、清水氏258,388票と敗れてしまいました。

しかし、当選しても、百条委員会で調査途中である齋藤氏のハラスメント疑惑がなかったことになるわけでも、容認されているわけではありません。引き続き、問題の核心は追究されるべきだと考えています。また、選挙後に公職選挙法違反の疑いも浮上し、県政が円滑に進んでいくのか注視が必要です。

今回の選挙では、SNS 等の新しい媒体によって、真偽が不明な情報が拡散され、民主主義の危機と感じた方々も多くおられると思います。歴史を振り返れば、権力側からの情報操作等によって、誤った行為に進んだ時代もありましたが、一方で民主主義を守るための闘いも見られます。いまは、日本国憲法の「不断の努力」によって人権と民主主義を守ることができるのかを問われている歴史の転換点なのかもしれません。

最後に おおさわ芳清 候補は当選できませんでしたが、掲げた公約と高教組がこれまで掲げてきた要求とは一致点が多くあります。私たち高教組が選挙を通じて考え、対話を広めてきたことには少なからず共感が広まっています。高教組は、これからも私たちの労働条件向上と教育条件整備に関わる要求実現の取り組みを続けていくことに変わりなく邁進します。

以上